

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 やすらぎ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成29年10月30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kami.true&amp;ji.gvovsOd=2192200026-00&amp;P.fOd=21&amp;Ver.sionOd=022">http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kami.true&amp;ji.gvovsOd=2192200026-00&amp;P.fOd=21&amp;Ver.sionOd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年12月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日、散歩やレクリエーションでカラオケ、ゲーム、運動などを行っています。外出支援では皆さんの希望により、喫茶店やファミレス、公園などに行っています。職員が一丸となって創意工夫をし、皆さんが自然に素敵な笑顔があふれ、はつらつと楽しく穏やかな毎日が送られるよう、心のこもった寄り添うケアを心掛けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は利用者の思いを大切に生きがいを持って暮らせるように職員に説明している。職員は利用者が生き生きと自宅で暮らしているような思いで、日々の生活が営まれるように思いやりをもって接している。地区の老人会との食事会や保育園の運動会、地域の行事に参加し、地域と交流している。災害訓練は消防署の指導で、医療機関と連携し隣接する事業所や地域住民が参加し、大がかりに行われている。医師と看護師の連絡を密にし、利用者の状態や治療状況を家族や事業所が共有している。利用者の状態の変化に伴い早い段階から終末期の対応について、家族、医師、事業所が話し合い、看取りの支援方法を看護師が職員に伝え、行っている。利用者の笑顔の写真が事業所内に貼られていて利用者が楽しく活き活きと穏やかに暮らしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。月一度の職員会議で、理念、心得を唱和し、理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。	管理者は会議等で理念について説明し、職員が唱和している。職員は毎年事業所の目標を掲げ、家庭的な雰囲気の中で利用者の思いを大切に、その人らしい日々の生活が生き生きと過ごせるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントへの積極的な参加や保育園児の訪問、地元老人クラブの皆さんとの交流を深めている。	利用者は地域行事や保育園の運動会に参加したり、老人クラブと食事会を行ったりしている。夏祭りには多くの地域の人に参加している。野菜を頂いたり、サックスや大正琴のボランティア等との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設主催の運営推進会議に自治会長、民生委員、消防本部、警察駐在所の方々に参加いただき、日常の状況や運営方針を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に参加していただき、活動報告や事故報告及び意見交換を行うことでサービスの向上に努めている。また、その議事録をご家族に発送している。	会議は隣接した同一法人の事業所と合同で行い、地域の代表者や家族が参加し事業所の現状・活動状況・火災や水害・感染対策や事故について話し合っている。会議内容は利用者の状況と共に手紙で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の津市介護支援専門員連絡会議で意見交換をしている。	管理者は市の担当者に書類の提出時に事業所の実情等を相談し合っている。入居困難な事例や空き状況等を相談し、情報を交換している。市主催の介護支援専門員連絡会議に参加し、勉強会を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を通じ、身体拘束に対しては職員一同理解をしている。現場でも確認し事故が無いよう見守っている。	身体拘束・虐待防止の外部研修や内部研修を行い、マニュアルを見直し職員間で確認している。落ち着かない利用者に対し看護師が専門医に相談し、職員と話し合い拘束をしないケアに取り組んでいる。ふらつきが強い利用者の状況を察知し転倒対策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、勉強会に必ず取り入れ虐待が見過ごされることがないように職員間で話し合いをしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会のテーマの一つとして取り入れられている。利用者様が自立支援事業や成年後見制度を利用されているため大変勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入所前にご家族に十分な時間を用意して頂き説明している。疑問点等の確認も行い、ご納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、ご意見をいただいたり、利用者様ご家族へのアンケートを実施している。ご家族の面会時は積極的に声掛けし、意見や要望に応じている。	管理者や職員は家族の来所時に、近況を伝えて意見や要望を聞いている。アンケートで指摘された事案を職員間で話し合い解決し、家族に報告している。利用者の行きたい場所や献立を聞きサービスに取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議で意見交換の時間を設けている。管理者による個人面談を通じて、不安や疑問点、提言等々を速やかに解消できるよう詳細に話し合っている。	管理者は毎月の会議で職員から意見や要望を聞き、現場に入ることにより状態を把握し改善に繋げている。ユニット会議で話し合われた、行事計画・備品の購入・毎日のレクリエーション等、職員意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員がやりがいを持って働ける職場をめざし、一人ひとりの生活環境を理解し、勤務体制を整え、介護職としてのキャリアアップができるようトップマネジメント会議を通じ指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会を取り入れ、職員に応じた研修機会を受講している。また、その研修結果を職員会議で報告、話し合い、全職員が共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、各管理者の集いに外部講師による講習会の開催や介護支援専門員は2ヶ月毎の行政主催のケアマネ会議の参加により同業者としての情報交換をしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し、利用者様の今までの生活歴を理解した上で、また、ご本人にも理解を得て入所していただくよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦勞を労うとともに入所にあたり本人様とご家族が円滑な関わりを継続できるよう援助していきたい		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族が入所にあたり、不安や希望など言い易い環境を整え、本人様やご家族が納得されるようなプランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人ひとりの今までの生活や経験を知ることで、その時々々の知恵をいただき、お互いに支え合う関係を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、一緒に支えるとの観点から信頼関係を継続するよう努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の電話利用については、事務所にて対応できるようにしている。また、毎月習字講習を実施し、文字に親しみを持たれるよう対応している。	近所の喫茶店や牛丼店が馴染みの場所と関係の場所となっている。家族に依頼してお墓参りやドライブに出かける人もいる。家族に聞き利用開始時の情報ノートを活用して、馴染みの人を把握しているが、知り合いの訪れは少ない。	訪問依頼の努力をされているが、馴染みの人が今以上気軽に、事業所に来ていただけるような工夫を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士共通の会話が弾む事ができるように、職員は状況により声掛けや情報提供ができるように心掛けている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族には、お手紙を出したり、また、長期入院された利用者様には病院に伺いご様子の確認をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより生活や性格を知る。また、入所されてからの様子を見ながら、できる限り今までの生活が出来るよう周辺の環境を整え支援している	管理者や職員は利用者との日々の関わりの中で、声掛けや接し方に気を付けて、本人の思いや意向を聞いている。困難な方は家族に生活歴を聞き、表情やしぐさから、把握している。「～したい」という思いを大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。施設生活での声掛けや他の利用者様との関わりを観察しながらその方らしい生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活の関わりの中で利用者様の状況を観察、把握し、職員間で情報を共有し利用者様の支援にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様らしい生活ができるように、ご家族や地域関係者等での運営推進会議を通じ、現状を常に共有し、また、種々の意見、要望に沿った介護計画を立案している。	毎月の会議で利用者の状況を把握し、家族や医師の意見を取り入れ、介護計画の作成や見直しを行っている。家族の訪問日や手紙で同意を得ている。状態が変化した時は、現状に即して計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の観察を記録に残し、変化がみられる時は、朝晩の申し送り時に職員間で状況を共有するとともに、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の状況は皆さんそれぞれ違うため、ご本人様をはじめご家族の意向を確認しながら安心をいただけるような支援をしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様をはじめ、ご家族、地域関係者が参加する運営推進会議で地域資源の活用等の意見や助言をいただき、利用者様の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医での継続診療が施設協力医療機関をお伝えしご本人・ご家族に選択して頂いている。突発的な状況においてもご家族と相談し専門医療機関の受診に付き添いや送迎を行うようにしている。	協力医による週2回の訪問診療があり、24時間対応している。皮膚科や眼科・認知症専門医の受診は家族が行っているが、管理者や看護師が同行している。医師と看護師が状態を連絡し、家族と事業所が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での変化や気がかりを直接伝えたり、申し送りやノートを活用し共有している。看護師は職員からの情報をもとに状況に応じかかりつけ医や専門医の受診へつなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には入所中の様子をサマリーで医療機関に伝えたり、2日1度は見舞うようにしている。入院中も病院看護師やケースワーカーと連携をとり情報の共有に努めている。状況に応じてご家族とも情報交換し早い段階で退院に結びつけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時には早い段階でご家族と今後について話し合い意思確認を行うようにしている。またご家族の意向を医師に相談し施設で提供するケアの方向性についても安心した最期が迎えられよう体制作りに取り組んでいる。	契約時に事業所の方針を説明し同意を得ている。状態の変化に伴い早い段階から医師・家族・事業所間で話し合い取り組んでいる。家族にこまめに状態を連絡し意向を確認し看取りも行っている。看護師が看取りの支援方法を職員に伝え、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ職員が初期対応できるよう勉強会や消防署職員からの救命訓練等を行っている。看護師不在時には電話で対応を相談することもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に運営推進会議への参加をいただき、ご意見を伺うとともに昼間と夜間を想定した、火災通報訓練、避難訓練、消火訓練、職員の非常召集訓練を実施している。	消防署の指導の下、夜間想定を含め、火災・水害に対し、家族や近隣住民、隣接している関連施設と合同で、連携した避難訓練を行っている。訓練後職員間で話し合っている。災害時の備蓄品と非常用の水は確保している。	

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より重視し努めている。利用者様への言葉づかい等、選択を誤った場合は職員会議等で反省し、全体の問題として繰り返さないよう取り組んでいる。	管理者は言葉使いに注意し、年上である利用者様の人格を常に尊重するよう、職員に指導している。職員は外部研修や勉強会で話し合っている。介助が必要な時には、本人を傷つけないようにさり気ない言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様に担当者を決め、コミュニケーションを取るようにしている。意思表示のできない利用者様にはその動向により、ご本人の希望をくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ間で連携し、各利用者様に合わせた支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に整容を心がけ実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは職員が実施している。食事はテーブル毎に利用者様の支援を実施しながら雰囲気づくりに努めている。	旬の食材を使い利用者の要望を取り入れ、ユニット毎に献立を立てている。野菜の収穫や下処理や盛り付けを一緒に行い、手作りのおやつも楽しみながら作っている。職員と一緒に談笑しながら和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の記録をし、豊かな食事を目指している。水分量は量の把握に努め、NSと連携しながら一定量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者様の状況に応じた、口腔ケアの実施、支援ができている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の状況に応じた支援を実施している。一定時間でトイレへの声掛けや誘導をし、失敗される前に排泄されるよう努めている。	排泄パターンを把握し、利用者の様子で察知し、さりげなく耳元で声掛けしてトイレ誘導をしている。その人に合ったパットやリハビリパンツを用意し、布パンツに改善した。夜間はポータブルトイレを使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のペースを把握し、便秘時は早めにNSへ報告相談している。果物を多く摂取して頂き、食事の面でも便秘対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は固定しているが、タイミングは各利用者様に合わせている。	入浴日は決まっているが、利用者の気分や体調に合わせて曜日を変更している。順番や湯温・入浴時間にも配慮している。ゆず湯や入浴剤を利用し、職員と会話や歌を楽しみながらゆったりと入浴出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様によって就寝のタイミングが異なるが、その方のペースに合わせた支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数の職員で薬と内容を確認し合い適切な服薬を実施している。またユニット毎の利用者個別冊子に服薬情報を明示し、全職員が共有でき誤薬が無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を通し、体操やレクリエーション、作業等でメリハリや楽しみが持てるよう考慮している。また月に数回の行事や外出支援で気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通常の外出は周辺道路への散歩程度である。利用者様によってはご家族と一緒に外出をお願いしている。行事やイベントを計画し楽しんで頂くことも実施している。	利用者は毎日のようにテラスで日光浴をしたり、近所を散歩したりしている。近くの喫茶店や牛丼店・回転寿司に行っている。車いす利用者も家族やボランティアの協力を得て外出を楽しんでいる。お花見や紅葉狩り等の季節ごとの行事に参加している。	



グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者様の金銭所持はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各利用者様の状況に合わせ、ケアマネと相談しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛け、気持ちよく利用して頂ける様努めている。	玄関先に利用者が作った折り紙の作品と季節の花を飾っている。広々としたリビングの掲示板には外出先での食事風景や行事等の思い出の写真を展示しており、会話の話題になっている。畳の部屋は落ち着いた雰囲気があり、利用者の習字を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はトイレ、浴室以外でおひとりにはなれないが、居室へ自由に移動することにより、おひとりになれる空間は確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に居心地良く過ごされるよう、各利用者様に合わせて対応している。	居室の入り口に季節の花や小物・家族や利用者の笑顔の写真が飾ってある。室内はテレビや日記・折り紙・編み物の道具など自由にレイアウトされている。仏壇やお経の本もあり、その人らしい、居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々安全な環境づくりに努め、利用者様の生活に支障のないよう努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 なごみ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成29年10月30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%27rue&amp;ji_gvovovOid=2192200026-00&amp;Pr_efOid=21&amp;Ver_sionOid=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%27rue&amp;ji_gvovovOid=2192200026-00&amp;Pr_efOid=21&amp;Ver_sionOid=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年12月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日、散歩やレクリエーションでカラオケ、ゲーム、運動などをしています。外出支援では皆さんの希望により、喫茶店やファミレス、公園などに行っています。職員が一丸となって創意工夫をし、皆さんが自然に素敵な笑顔があふれ、はつらつと楽しく穏やかな毎日が送られるよう、心のこもった寄り添うケアを心掛けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。月一度の職員会議で、理念、心得を唱和し、理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントへの積極的な参加や保育園児の訪問、地元老人クラブの皆さんとの交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192200026-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192200026-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>	施設主催の運営推進会議に自治会長、民生委員、消防本部、警察駐在所の方々に参加いただき、日常の状況や運営方針を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に参加していただき、活動報告や事故報告及び意見交換を行うことでサービスの向上に努めている。また、その議事録をご家族に発送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の海津市介護支援専門員連絡会議で意見交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を通じ、身体拘束に対しては職員一同理解をしている。現場でも確認し事故が無いよう見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、勉強会に必ず取り入れ虐待が見過ごされることがないように職員間で話し合いをしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会のテーマの一つとして取り入れられている。利用者様が自立支援事業や成年後見制度を利用されているため大変勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入所前にご家族に十分な時間を用意して頂き説明している。疑問点等の確認も行い、ご納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、ご意見をいただいたり、利用者様ご家族へのアンケートを実施している。ご家族の面会時は積極的に声掛けし、意見や要望に応えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議で意見交換の時間を設けている。管理者による個人面談を通じて、不安や疑問点、提言等々を速やかに解消できるよう詳細に話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員がやりがいを持って働ける職場をめざし、一人ひとりの生活環境を理解し、勤務体制を整え、介護職としてのキャリアアップができるようトップマネジメント会議を通じ指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会を取り入れ、職員に応じた研修機会を受講している。また、その研修結果を職員会議で報告、話し合い、全職員が共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、各管理者の集いに外部講師による講習会の開催や介護支援専門員は2ヶ月毎の行政主催のケアマネ会議の参加により同業者としての情報交換をしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し、利用者様の今までの生活歴を理解した上で、また、ご本人にも理解を得て入所していただくよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦勞を労うとともに入所にあたり本人様とご家族が円滑な関わりを継続できるよう援助していきたい		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族が入所にあたり、不安や希望など言い易い環境を整え、本人様やご家族が納得されるようなプランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人ひとりの今までの生活や経験を知ることで、その時々々の知恵をいただき、お互いに支え合う関係を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、一緒に支えたとの観点から信頼関係を継続するよう努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の電話利用については、事務所にて対応できるようにしている。また、毎月習字講習を実施し、文字に親しみを持たれるよう対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士共通の会話が弾む事ができるように、職員は状況により声掛けや情報提供ができるように心掛けている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族には、お手紙を出したり、また、長期入院された利用者様には病院に伺いご様子の確認をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより生活や性格を知ること。また、入所されてからの様子を見ながら、できる限り今までの生活が出来るよう周辺の環境を整え支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。施設生活での声掛けや他の利用者様との関わりを観察しながらその方らしい生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活の関わりの中で利用者様の状況を観察、把握し、職員間で情報を共有し利用者様の支援にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様らしい生活ができるように、ご家族や地域関係者等での運営推進会議を通じ、現状を常に共有し、また、種々の意見、要望に沿った介護計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の観察を記録に残し、変化がみられる時は、朝晩の申し送り時に職員間で状況を共有するとともに、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の状況は皆さんそれぞれ違うため、ご本人様をはじめご家族の意向を確認しながら安心をいただけるような支援をしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様をはじめ、ご家族、地域関係者が参加する運営推進会議で地域資源の活用等の意見や助言をいただき、利用者様の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医での継続診療か施設協力医療機関をお伝えしご本人・ご家族に選択して頂いている。突発的な状況においてもご家族と相談し専門医療機関の受診に付き添いや送迎を行うようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での変化や気がかりを直接伝えたり、申し送りやノートを活用し共有している。看護師は職員からの情報をもとに状況に応じかかりつけ医や専門医の受診へつなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には入所中の様子をサマリーで医療機関に伝えたり、2日1度は見舞うようにしている。入院中も病院看護師やケースワーカーと連携をとり情報の共有に努めている。状況に応じてご家族とも情報交換し早い段階で退院に結びつけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時には早い段階でご家族と今後について話し合い意思確認を行うようにしている。またご家族の意向を医師に相談し施設で提供するケアの方向性についても安心した最期が迎えられるよう体制作りに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ職員が初期対応できるよう勉強会や消防署職員からの救命訓練等を行っている。看護師不在時には電話で対応を相談することもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に運営推進会議への参加をいただき、ご意見を伺うとともに昼間と夜間を想定した、火災通報訓練、避難訓練、消火訓練、職員の非常召集訓練を実施している。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の情報収集や外部との連携の際には情報の個別性や守秘義務を十分に理解しながら責任なる対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様の表情や変化に気づくように努めている。思いや希望を率直に話されるよう、コミュニケーションを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるものの、時間等にこだわりを持つことはないよう、出来るだけ利用者様の意向に沿うようスケジュールをとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の思いで美容院を予約したり、その方の生活習慣に合わせた、おしゃれを楽しまれるよう、また家族の方とも連絡しながら服装選び等をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下処理には時間をかけ、美味しく、楽しく食べていただくよう、また職員も同じテーブルについて、楽しい食事の時間を共有できるよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の水分摂取量の記録により、不足等がみられる時は栄養補助食品やスポーツドリンク等を摂っていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方にはその都度、口腔ケアの声掛けをし実施されている。介助の必要な方には居室にて職員がその方に合った支援をしている。		



グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の様子から敏感に察知したり、羞恥心に配慮しながら、身体機能に応じて支援を行っている。紙パンツ、パット類もその方に合わせ随時支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響から、飲食物の工夫や腸の働きを良くするように外出や散歩に積極的にお誘いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の体調やお気持ちに配慮し、また介護状況に合わせて、特浴や個浴にと支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの利用者様の状態で自由に居室で休まれたり、リビングで過ごされたりと就寝時間を決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は看護師の指導の下、それぞれの利用者様の服薬を把握し服用支援をしている。また、その後の状況を観察し、異常の場合は看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や体調に合った、洗濯物のたたみなど家事を手伝っていただくようにしている。また、得意なことは率先して手伝っていただくよう声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や利用者様の希望により散歩に出かけたり、テラスで日光浴をしたり、また年間行事計画を立て、花見、地域の祭り等に参加している。さらに外食、喫茶店、ドライブ等外出支援をしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者様の金銭所持はない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自ら電話できるようにしている。また手紙やはがきの返信など、望まれば応援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	細やかな空気換気や空調の調節等を行い、快適な環境に心掛けている。また食堂のテーブルや壁には季節の花を活けたり、利用者様の手作りの作品を展示したり、飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居室、中庭には椅子や長椅子を配置し、一人で過ごしたり、仲の良い利用者様同士がくつろげるよう心掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、居室のレイアウトを心がけている。また記念写真や作品等自宅と変わらないように掲示等に演出していきたい。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にとって、何がわかりにくいのか、どうしたらご本人の力でやって頂けるのかを追求し、状況に合わせて環境整備に努め、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげるようにしていきたい。		